

令和7年度第2回若葉区支えあいのまち推進協議会

議事要旨

1 日 時 令和7年11月20日(木)10時00分～12時00分

2 場 所 若葉保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者 委員 30名(欠席委員数2名)

傍聴人 0名、事務局 11名

4 議 題

(1) 令和6年度取組状況調査の報告について

(2) オンライン会議の普及・啓発について

(3) 安心カードの民生委員調査等の報告について

(4) 事例の紹介「社協白井地区部会の概要について」

議題(1)令和6年度取組状況調査の報告について

若葉区高齢障害支援課海老原主査より令和6年度の取組状況調査の報告についての説明があった。その後、質疑応答に移るも発言はなく、小倉地区部会(水戸委員)、御成台、千城台西・北地区部会(菊次委員)の2地区から地区部会活動の紹介を行った。

○水戸委員(小倉地区部会)

昨年からは開始した障害者作業施設でボランティア活動は定着しつつある。一方で、コロナ禍で中断した「散歩クラブ」は参加者が激減したため、活動を中断したままとなっている。

「食事サービスについては再開が難しく、去年は「男の料理教室」、今年は「簡単料理教室」と形を変えて実施した。

○菊次委員(御成台、千城台西・北地区部会)

昨年12月頃からサロン等で「回想法」を取り入れ、昔の唱歌や映画のワンシーンを振り返り、会話を楽しんでいる。参加者は昔の楽しい思い出が蘇り、顔色も表情も良くなっている。今は映画等を観て楽しんでもらっているが、今後は、参加者同士の会話をもっと盛り上げていきたいと思っている。

議題(2)オンライン会議の普及・啓発について

若葉区高齢障害支援課海老原主査より今後のオンライン会議の普及・啓発について説明があった。その後、質疑応答及び意見交換に移った。

○真鍋委員(若松地区部会)

オンライン会議になったとき、傍聴席者はどうなるのか。

→(事務局)

ハイブリットを検討している。オンラインのみを考えているのではなく、当日会場まで来られない人でもオンラインで参加できるようにということを想定している。今後、全面的なオンラインになった場合は、傍聴者をどうするのか検討する必要がある。

オンライン会議の場合、今回のように会議資料が多いときも自分で印刷して準備しなければならないのか。

→(事務局)

本会議の資料は紙で用意することを想定している。欠席者に対して会議資料を送付する際に、データ送付を希望した方にメールで資料を送付することを考えている。

○津田委員

推進協だよりを自治会宛てにメールマガジンで配信したとあるが、自治会は行政からの連絡を回覧する勤めがあるので、自治会に送付した時に自治会からのレスポンスはどうなっているのか把握した方がいいのではないかと。

議題(3)安心カードの民生委員調査等の報告について

若葉区高齢障害支援課海老原主査より安心カードの民生委員調査等の報告についての説明があった。その後、質疑応答及び意見交換に移った。

○森委員(白井地区部会)

高齢者緊急通報システムは、アナログの電話回線を使わないといけないと聞いている。最近では固定電話がない人もいます。どういう仕組みになっているのか知りたい。

→(事務局)

自宅に電話回線がない人で非課税の方には、千葉市が保有している電話回線を貸し出す制度がある。その制度を併用して高齢者緊急通報システムを利用してもらっている。アルソックのシステムがどうしてもアナログ回線を利用しないといけないため、電話回線がないと利用ができない。課税世帯の方には電話回線を引いてもらう必要がある。

○山内委員(都賀地区部会)

安心カードは、各地区によって配布対象が異なるとなっているが、市としての配布方針はあるのか。各地区で考えるものなのか。高齢者は皆持ちましようとして広く周知するべきものではないか。

→(事務局)

安心カードは千葉市の制度ではない。民児協の中で自主的に広めている運動なので、市の制度のような条件や規定はない。そのため、配布対象等について地区の差がある。

○津田委員

高齢者緊急通報システムを役員会の中で紹介したが、わかりにくい面があった。利用者の声を申込書の中に盛り込んだ方がいいのではないかな。

議題(4)事例の紹介「社協白井地区部会の概要について」

駒野委員長より自身が所属している社協白井地区部会の組織の概要や活動状況などについての事例紹介があった。

○山内委員(都賀地区部会)

あんしんケアセンターに相談に行くことはかなりプライバシーに関わること。地域の通いの場での出張相談に皆が相談に来るのが気になる。都賀地区部会はコミュニティーカフェにあんしんケアセンター職員に来てもらったり、定期刊行冊子にあんしんケアセンター都賀の告知を入れたりしている。

地域で様々な活動をしているが、活動に対しては社協からの補助金が出ているのか。ボランティアだけで活動しているのか知りたい。

また、パンフレットは非常に良いものなので自分の地区でも真似をしたいと考えているが、幾ら位でできるものなのか。

→(駒野委員長)

いきいきサロンは自治会で開催しているが、助成金が出るので、3か月毎に報告をしてもらっている。見守り活動も同様に助成金が出るので、地区部会で協力しながら行っている。

また、サロンは中心になる人が活動メンバーを集めて行っている。

パンフレットは4万円程かかったのではないかと記憶している。

○石橋委員(更科地区部会)

買い物支援について教えてほしい。

→(駒野委員長)

圏域内にスーパーがなく東金街道沿いにコンビニが2か所しかない。そのため、移動販売にも来てもらっている。その他、圏域内にある高齢者施設に協力を得ている。デイサービス送迎車の空いている時間を使って隣接圏域のスーパーに月2回程行っている。

18自治会あると言っていたが、名簿に載っている自治会長は11名に留まっている。理

由を聞きたい。

→(駒野委員長)

それぞれの都合で参加できない自治会長もいるので全員が参加しているわけではない。

5 報告事項

「次期(第6期)地域福祉計画の方向性(案)について」

地域福祉課中田課長より次期(第6期)地域福祉計画の方向性(案)について説明があった。その後、質疑応答及び意見交換に移った。

○森委員(白井地区部会)

課題となっているのは次期支える人。地域活動としてどのようにしていったらいいか。ボランティアを地域活動のなかでどのように作っていくか。地区部会でどのように関わっていくのか。

→(中田課長)

担い手の問題等については難しい問題と捉えている。具体的に何ができるかとなると難しい。推進協の場に地域の多様な担い手の方に参加してもらうことも一案。面的な活動をしていない一部分の活動をしている地域の方に地区部会の活動を知ってもらうことも良い。推進協の場がそんな場になればいいと考えている。

6 その他

○事務局

- ・昨年度は第3回の会議で講演会を開催した。今年度は、まだ検討の段階ではあるが、昨年度講演を依頼した関谷先生を呼び、アドバイスをもらいながら、当協議会のメンバー内でのグループワークをしたいと考えている。テーマは、「地域資源の洗い出しや見える化」にしたいと考えている。詳細につきましては、次回の運営企画員会にて検討して行きたいと考えている。
- ・お配布したピンク色の「意向確認票」、閲覧用に配布した白い冊子の「支え合いのまち千葉 推進計画」、うす緑色のパンフレットの「若葉区支え合いのまち推進計画」のを会議終了後回収するので机に置いておいてほしい。今年度、新任された委員の方で、まだお手元がない方は持ち帰っていただきたい。

○井出委員(東京情報大学)

看護学部の学生と教員で健康チェックをしながらのコミュニティーカフェを開催しており、12月と2月にも開催を予定している。また、3月に公開講座として生涯学習センターと共催でフレイルのシンポジウムを予定している。

若葉保健福祉センター風戸所長から挨拶を行った。

駒野委員長が閉会挨拶をおこなった。

事務局から次回、第3回推進協議会は令和8年2月頃を予定していること、日程が決まり次第、事務局から連絡することを伝え、協議会を終了とした。

○森委員(白井地区部会)

市が人口データを公開しているが、小学区別のものは10歳刻みで掲載していて、65歳以上や75歳以上のようなデータが取れない。町別人口は1歳刻みで掲載しているので、小学校区別のものも1歳刻みで掲載してほしい。